

17

蛇毒ホスホリパーゼによる赤血球膜磷脂質検出の試み

金田吉正・滝口憲生・町中恵美代・
森井外吉
(関西医大第2病理)

赤血球膜磷脂質を蛇毒ホスホリパーゼで消化し、遊離してくる脂酸をカルシウムで *in situ* に捕え、光顕的にはカルシウムを銅でおきかえて後のHolczinger法で観察し、またカルシウムを鉛で置換して電子染色なしで電顕的に鏡検した。Hanahanらの方法によるラット赤血球ゴーストまたはグリシルグリシン緩衝液に浮遊させたラット赤血球を基質材料とした。酵素濃度0.1~0.002%、PH6.4、37℃で30~90分間消化したが、酵素の添加していないもので反応される他は全く同一操作を施されたものを対照とした。赤血球膜に一致して分布する銅または鉛の沈着を認めたが、赤血球浮遊液を材料としたものが観察が容易で、良好な所見が得られた。この結果に対する吟味を現在試みつつある。

18

Trypsin inhibitor(Ovomucoid)の免疫組織化学的研究

上見幸司 (慶応大解剖)
鈴木俊郎 (東海大解剖)
関口雅樹 (慶応大解剖)
三井但夫 (慶応大解剖)

鶏卵白酵素蛋白には、Lysozyme, Trypsin inhibitor(Ovomucoid)等があり、受精、産卵、フ化、すなわち受精卵発生に際し、その生理学的意義は大きい。我々は結晶化された卵白Trypsin inhibitor(Sigma社, Boehringer社)をそのまま抗原として用い、型のごとく家兎に免疫し抗血清を得た。抗体グロブリンはFITC, またaldehyde-HRPOと各々標識し、DEAE-セルロースで分画後染色に供した。組織標本は成鶏諸臓器を6~8 μ の凍結切片とし、固定液は種々の中より緩衝ホルマリン・アルコールが安定した反応を示した。特異反応は、卵管組織では卵管固有部の中部から下部(終末部の多糖類染色陽性部)が強陽性像を呈した(本酵素分子Mw28000の25%は多糖類)。卵の下降に伴って、粘膜上皮に反応が現われ管腔の余剰分泌物を吸収するものと理解される。さらに他臓器の反応も供覧する。